

平成28年度 市町村議会議員特別セミナーに参加して (報告書)

さる平成28年5月12～13日、千葉の幕張にある全国市町村職員研究所で開催された表記の研修会に参加した。4つの講義と初日の夜の交流会という二部構成で、

講義1 脱成長社会に向けて 京都大学名誉教授 佐伯 啓思 氏

講義2 地方議会から国会を見る NHK解説委員 島田 敏男 氏

議員交流会

講義3 地方創生と地方議会の役割 読売新聞編集委員 青山 彰久 氏

講義4 人口減少時代の地域づくり 弘前大学大学院教授 北原 啓司 氏

以下概略を報告する。

講義1 タイトル：「脱成長社会に向けて」

京都大学名誉教授 佐伯 啓思 氏



日本経済の失った20年を検証、少子高齢化や人口減少により経済が縮小化しつつある。さらにグローバル化により雇用の減少しつつある中、構造改革、規制緩和や終身雇用制の崩壊などが発生。その結果日常生活の安心・安定が薄らぎ、心の休まることの無い殺伐とした社会が蔓延しだした。今までものづくりに邁進してきたが、このような社会において社会システムを変えてゆかねば生らないとの事であった。10万人くらいの程よい規模の町で友達や顔なじみと仲良く暮らしてゆけるシステム作りを急がねばならないと。

講義2 タイトル：「地方議会から国会を見る」

NHK解説委員 島田 敏男 氏

かの有名なNHK日曜討論の司会者が登場してびっくり。さすが視野と言い、説得力と言い、知識の深さ、人脈の広さには脱帽した。投票率がどんどん下がって行ってること、特に若者の投票率が低いこと、18歳選挙権の行方、内閣支持率、伊勢志摩サミット、オバマ大統領の動向、消費税、原発再開、政党支持率、安全法制、そして最後に参議院選の行方など豊富な経験とデータを下で解説してくれた。

議員交流会

初日の講義を終え、全員集合の交流会となった。141人にも及ぶ市町村議員さんたちの顔合わせ会。市の同僚議員8人で参加した。このような交流会では初めての、一つのテーブルに10人くらい座り、立食では味わえない有意義な交流が持てた。そこでまず、横にいた議員さんと名刺交換、長崎県東彼杵町の立山議員、話をしているうちになんと彼も私と一緒にボランティアが高じて町をもっと良くしたいと思うようになり立候補したとのことであった。周りの議員とも話が盛り上がり、実り多き交流会となった。

講義3 タイトル：「地方創生と地方議会の役割」

読売新聞編集委員 青山 彰久 氏

安部政権は時代の時計の針を逆にまししているのでは？と突然ショッキングな言葉から講義は始まった。国の強い関与や補助金では地域は良くなる。今

後地方が良くなるか、衰退してゆくかは日本の脱工業化や脱都市化、田園回帰の国民の志向性をしっかり捕らえ、自治体自らがその町の将来像を模索し、その特性に乗った多様性に富む地域づくりを実行してゆくかにかかっている。自治体の立法機関である地方議会の役割は大変重要で、①地域の課題を明らかにし住民に公開する、②勉強する政治家を作る、③首長と行政機構を監視する事が求められている。議員は地域全体を政治的に統合する専門家であれ！という主張には感銘を受けた。

講義4 タイトル：「人口減少時代の地域づくり」

弘前大学大学院教授 北原 啓司 氏

都市計画が変わりつつある。成熟社会のまちづくりは成長社会のまちづくりとは違って量より質を求めなくてはならない。市場拡大のアメリカモデルに変わってスロー、個性、文化を尊重するヨーロッパモデルへと変わりつつある。コンパクトシティーは、合併した市町村の周辺町村から家を動かすことではなく、それぞれの町村の良いところ、歴史や文化を生かしてそれを活用し、ネットワークとして活用する事がこれからのコンパクトシティーの定義と成る。地域活性化は商店街や産業を活性化するだけではだめ、地域に係る人々を活性化することこそが重要と語る。コンパクトシティーを縮退都市（縮んで行く都市）にとらえず、スマート・シュリング（賢い縮退）と捉え、無理にまとめるのではなく、街なかの魅力満喫する濃いライフスタイルも選択できる都市とする事が大事とのこと。都市の周辺に広がる農山漁村地域との有機的な共生を図り、近郊の市町村と都市機能の補完し合うといった考えが必要となっているとのこと。

まとめ

4人の講話を拝聴して、行政職員の責任・役割りの大きさを感じながら、それにもまして政策を決定してゆく議員の責任はもっと重いものだと痛感させられた研修であった。この学びを市政に活かすよう頑張る所存である。

なお、今回の研修は東京圏で実施されたため、かねてより噂の街づくりを実践している台東区の谷中商店街を訪ねてみた。噂どおりで外国人もわんさと歩いていて町中が大いににぎわっていた。

しかし、一軒一軒の店を覗いて見ると何ら変哲も無い惣菜屋、雑貨屋、野菜屋さんなどが並んでいるだけで小倉の旦過市場とそう変わらない。でもちょっぴり



しゃれた小物やブティックがある。店の人に聞くと「10年前まではつぶれかけた商店街だった。みんなが力を合わせ広報や細かな工夫に取り組み、マスコミの食いつきも良かったせいで一挙にフィーバーしたとのことであった。その日も2人の若い娘さんが浴衣を着て宣伝用の写真撮影をしていた。伊田の街も金曜日の18～20時までアーケードで屋台村なんかやったら楽しいがな～と密かに考えながら帰途に着いた。。

平成28年6月

田川市会議員 植木 康太